

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、本校は「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身についていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

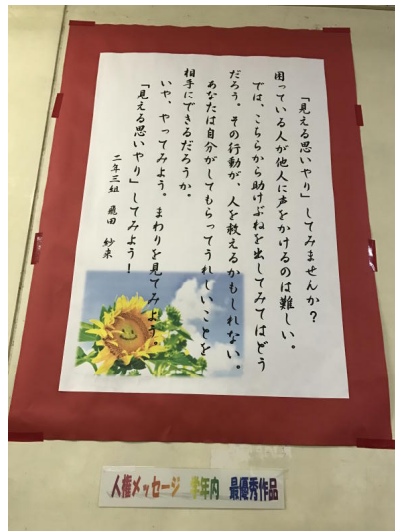
2 実践内容

(1) 学校全体としての取り組み ～いじめ撲滅運動～

ア 人権メッセージの作成に全校生徒で取り組み、各クラスで話し合って代表の作品を選ぶ。その後、全校の中から優秀作品を選定し、学校内に掲示した。



【1年生作品】



【2年生作品】



【3年生作品】

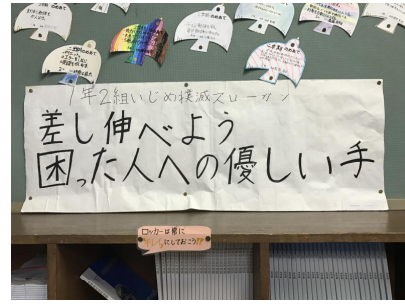
イ 全クラスで「いじめ撲滅」のためのスローガンを考え、黒潮祭の中で各クラスの「いじめ撲滅宣言」を発表する。



【黒潮祭で発表】



【「絆バトン」を次のクラスへ】



【学級掲示の様子】

ウ 全校生徒での「いじめ撲滅標語」への取り組み

生徒会が中心となっていじめ撲滅標語を募集し、全校生徒が取り組んだ。標語は、各クラス前に掲示した。



【いじめ撲滅標語】

(2) 1学年の取り組み「K J Iプロジェクト」

～情報機器を正しく安全に使うために～

「K J Iプロジェクト」は、1学年での携帯電話・スマートフォンのトラブルを発端とし、立ち上がったプロジェクトである。Kは「携帯電話」 Jは「情報機器」 Iは「インターネット」の頭文字であり、学級委員と希望者を中心として実行委員会を立ち上げ、現在、学年としての携帯電話使用のルール作りを行っている。



【学年集会でアンケート結果の発表】



【保護者も参加して話し合い】



【講師の先生を招いて講演会】

(3) 地域との交流

久慈中生としての活動を行うことにより、集団の一員として役割を果たしたり、自覚をもって行動したりすることができる。



【小中学校あいさつ運動】



【リサイクル活動】



【ふくしまつりに参加】

3 成果

- ・全校生徒で行った「いじめ撲滅運動」によって、ひとりひとりの違いや個性を認め、尊重する意識、困っている友達がいたら助けてあげようとする心、いじめという行為を見過ごさない・許さないといった雰囲気や育まれてきた。また、それを黒潮祭で発表することによって、学校全体として「いじめを許さない」という意識を共有することができた。
- ・人権メッセージやいじめ撲滅宣言などが教室内や廊下に掲示されていることや、道徳の授業、学年集会や全校集会、黒潮祭等の活動を通して、生徒の言動に変化が見られている。トラブルのもとになるような厳しい言葉かけでなく、相手を思いやるような言葉かけが増えた。
- ・K J Iプロジェクトが発足したことで、情報機器を介したSNS等でのトラブルの数は減少した。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間・学校行事など教育活動全体の中で、人権に対しての取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、今年度から始まった「K J Iプロジェクト」は、学年としての取り組みとしてだけでなく、来年度以降は全校での取り組みとしていきたい。さらに、本校の取り組みを、地域に積極的に広報し、連携しながら活動を行うことができるようにしていきたい。